

## 公 表

### 第33回 技能グランプリ「貴金属装身具」職種競技課題

※ 材料に示す支給材料を用い、競技課題図に示す作品を作製する。

#### 1. 競技時間

10時間00分（第1日 7時間00分 第2日 3時間00分）延長時間なし

#### 2. 注意事項

- a. 材料は競技用として支給された材料を使用し、それ以外は認めない。
- b. 使用工具は、基本的に持参工具一覧表で示した物以外使用してはならない。
- c. 持参した工具等は、競技開始前に競技委員の確認（点検）を受ける。使用を認められない工具は使用してはならない。
- d. 課題作品のための書き板、特殊な加工を施した工具類、また競技前に作製した展開図、案内図などは使用禁止。但し、競技中に作製したものは除く。
- e. 競技中は、安全に作業できる服装を着用し必要に応じて保護具を装着する。
- f. 競技中は、競技者間の工具類の貸し借りを禁止する。
- g. 競技中は、競技者間同士及び見学者、家族、友人等との会話は禁止する。（厳守）
- h. 競技中は、指定した場所以外での喫煙は禁止する。
- i. 薬品類の取扱い及び処理については、競技委員及び補佐員の指示に従うこと。
- j. 競技終了時間前に作業を終了した人は、競技委員に終了したことを伝えた上で作品を提出し、片付けを行わず速やかに競技エリア外に退出し待機する。
- k. 競技委員より競技時間終了の合図があったら、直ちに作業を止め作品を洗浄した上で、指定された場所（補佐員）に提出する。
- l. 競技終了後、競技委員の指示により、残り地金（異物を全て取り除く）と残りのろう材をそれぞれに分けて返却し、会場の工具及び各自持参工具の片付けを速やかに行うこと。**作業により生じた粉や細かい残材については AU750 と Pt900 が混ざった状態で良い。**  
また、片付けが終了するまでは競技者間の会話は控えること。—
- m. 支給材料を標準消費量（減り）よりも多く消耗した場合は減点の対象となる。  
消耗した量または残り地金への**異物**混入の状態により其々減点される。  
(**異物**：折れたのこ刃・ゴム・耐火材の破片、研磨剤、紙、木片等)
- n. 禁止事項に対し競技委員より注意されないよう競技に臨むこと。
- o. その他、競技委員より指示があった場合は、その指示に従うこと。

## 公 表

### 3. 貴金属装身具職種 競技課題仕様

- a. 競技課題図を正確且つ慎重に読み取り、左右バランスのとれた美しい作品を製作する。  
**本課題は AU750 と Pt900 のコンビのため、課題図及び完成イメージを元に各地金の指定位置を間違えないよう注意すること。**
- b. ろう付け箇所は精密に擦り合わせ、ろう材の過不足がないようにする。
- c. 寸法を指定された箇所はそれぞれの許容差内に仕上げる。寸法指定の無い箇所については課題図から慎重に読み取り製作すること。中心部からの左右の寸法差についても極力小さくなるように製作すること。
- d. A 部、B 部、C 部については、D 部を中心とした左右対称になるように製作する。課題図をよく読み取り、組み上げた際に優美で流れるようなラインになるよう心掛けること。
- e. A 部（羽内側パーツ）は、支給された AU750 の板材及び Pt900 の角棒を使用し、課題図に示すように製作する。表面は擦り出しで加工し、各部は最も厚い所で  $t2.0\text{ mm}$  になるようにする。
- f. B 部(羽中間パーツ)は、支給された AU750 及び Pt900 の角棒を使用し、それぞれのパーツをよく擦り合わせて課題図に示すように加工する。A 部とは、A 部の下部に入り込むように接し、接点は全てろう付けする。
- g. C 部(羽外側パーツ)は、支給された AU750 及び Pt900 の角棒を使用し、それぞれのパーツをよく擦り合わせて課題図に示すように加工する。先端は B 部側面に接するように精密に擦り合わせ、接点は全てろう付けする。
- h. B 部、C 部の左右計 12 パーツの各部形状については、最大幅（最も太い部分） $2.0\text{mm}$ 、最大厚（最も厚い部分）も  $t2.0\text{mm}$  とし、断面図 a～e を参考に課題図をよく読み取り、A 部 D 部も含めた全体として美しい自然な動きの表現を意識して製作すること。
- i. C 部の裏側には、支給された AU750 の丸線を  $\phi 0.8$  に引き、課題図に示すように D 環を付ける。
- j. D 部は、支給された AU750 のパイプ及び丸線を使用して課題図に示すように製作し、左右の A 部と精密に擦り合わせ、接点は全てろう付けする。共有爪 6 本は全て  $\phi 0.8\text{mm}$ 、上部 2 本の爪と下部の 1 本の爪は  $\phi 0.7\text{mm}$  で製作し、下部の爪については E 部を下げられるように D 環状に裏側まで繋げてろう付けする。
- k. E 部（ペアシェイプ石枠）は、支給された AU750 の丸線と板材を使用して課題図に示すように製作する。石座および頂点の爪は  $\phi 1.0\text{mm}$  の丸線、下部 2 本の爪は  $\phi 0.8\text{mm}$  の丸線を使用し、金性刻印と競技者番号（2 ケタ）を刻印した  $t1.0\text{mm}$  の板材を下座として

製作する。頂点の爪には D 部下部の D 環部にぶら下げられるように  $\phi 0.7\text{mm}$  の丸環をろう付けするが、丸環の位置については、合成サファイヤを石留めして D 部にぶら下げた際に石のテーブル面がまっすぐ正面を向く重心バランスが取れる位置に付けること。(各選手に支給する合成サファイヤに多少の誤差が有りうるためであり、この丸環の位置の差異による減点等は生じない。)

- l. E 部と D 部の接続についてはスムーズに動くようにぶら下げ、各環部はろう付けして閉じること。
- m. E 部石枠には合成サファイヤを石留めし、ぶら下げた際にバランス良くまっすぐ正面を向くようにすること。石留めの際、石を破損しないようくれぐれも注意すること。
- n. 作品は、工具や加工による傷、加熱等による変色を全て除去し、支給材本来の色彩に鏡面仕上げする。その際、研磨し過ぎにより形状がくずれないよう注意する。
- o. 作業手順は各競技者の裁量で進めること。